

## 7. 堰と周辺地域との関わり

## 7.1 堰周辺の概況

### 7.1.1 堰周辺地域の概要

#### (1) 概要

九頭竜川流域は、本州日本海側のほぼ中央にあり、福井県嶺北地方に位置している。流域には、福井市をはじめ福井県の7市4町と岐阜県群上市の一部が含まれている。流域面積は、福井県面積の約70%に相当する2,930km<sup>2</sup>である。また、山地と平地の割合は、福井平野などの平地が約22.2%であり、残りの約77.8%が山地である。

流域の主流である九頭竜川は、幹川流路延長116kmを有し、北陸地方屈指の大河川であるとともに、この地域を代表する「母なる川」として古くから人々の生活と密接な関わりを持ち、親しまれてきた河川である。九頭竜川の源は、福井県と岐阜県境の油坂峠（標高717m）に発し、九頭竜峡谷を経て大野盆地を北流し、大野市と勝山市との境付近で左支川真名川を合わせ、永平寺町鳴鹿にて福井平野に入り、そこから西流する。そして、福井市高屋において左支川日野川を合流し、流れを北西に転じ三国町で日本海に注いでいる。

鳴鹿大堰は、九頭竜川の河口から約29km上流に位置しており、洪水の安全な流下と利水補給を目的としている。堰およびその貯水池の右岸側は坂井市、左岸側は永平寺町であり、下流には福井市が位置している。

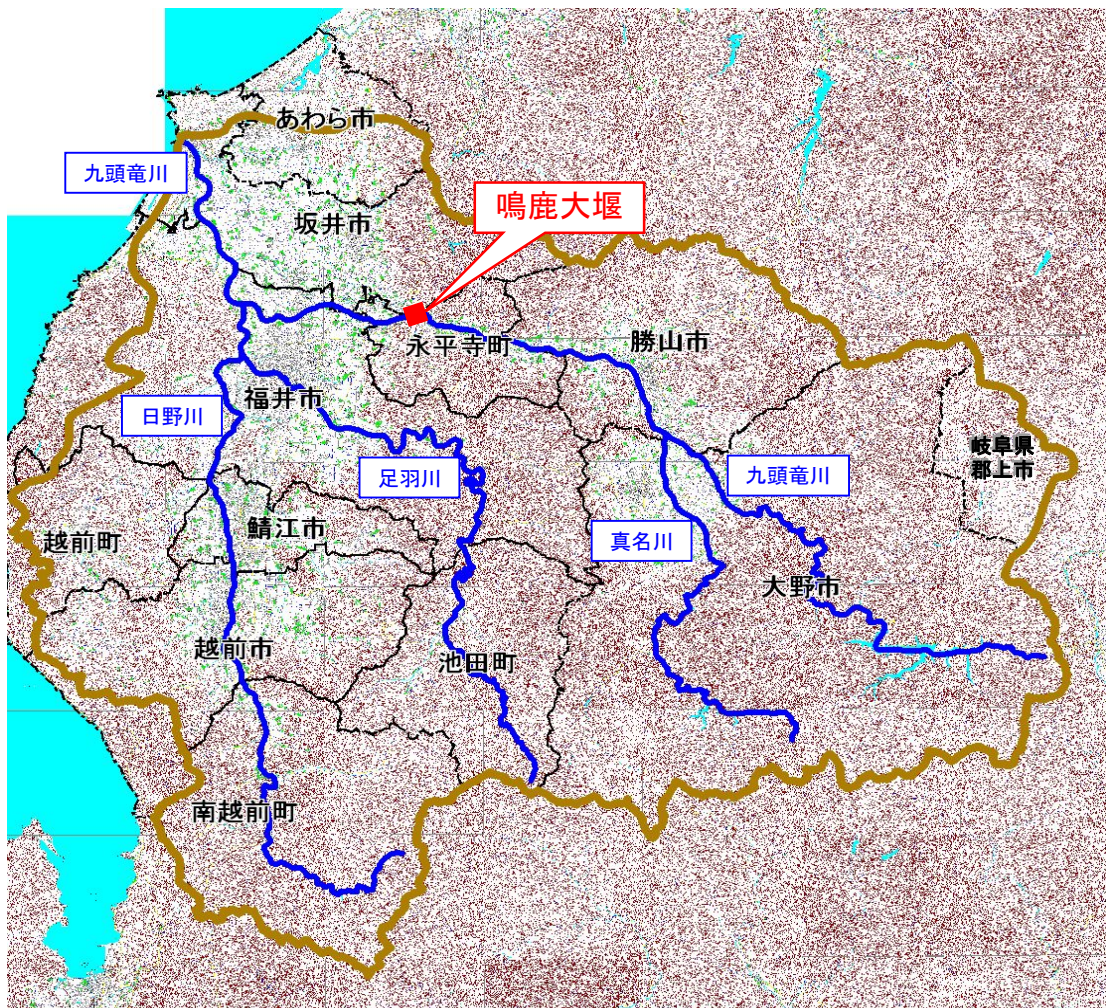


図 7.1-1 鳴鹿大堰周辺の概況

(2) 人口

昭和30年(1955)から平成17年(2005)までの間の流域関連市町村ならびに福井市、坂井市、永平寺町における人口と世帯の推移は、以下に示すとおりである。

昭和30年の流域関連市町村の人口は約65.8万人であり、50年間に約6.2万人、約9%の人口増となっている。

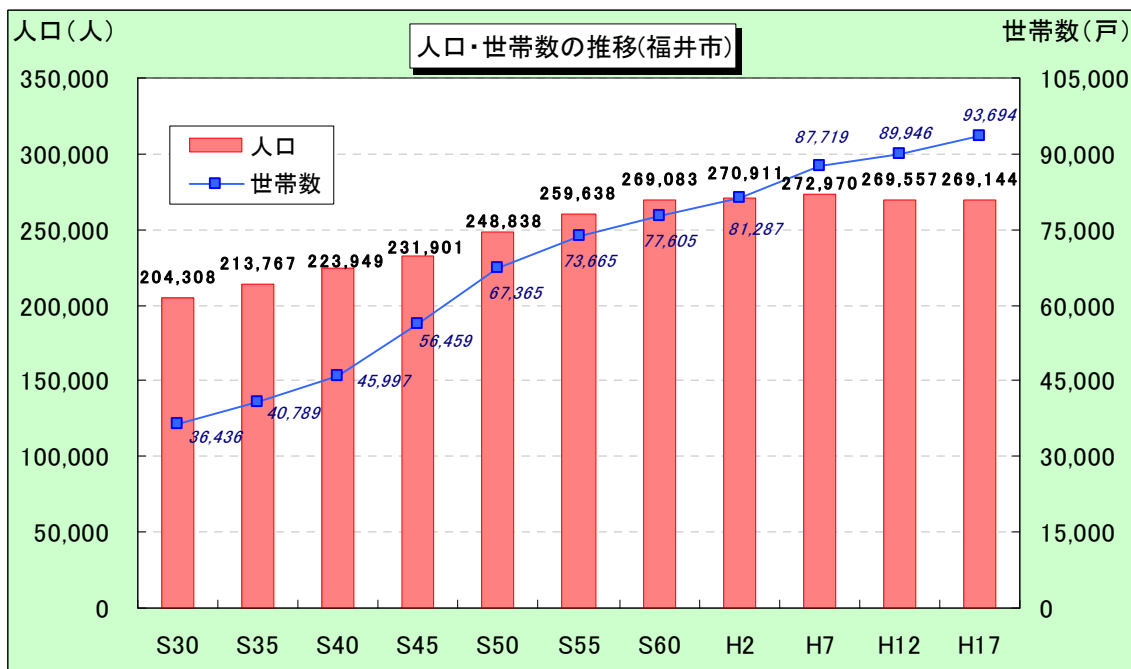
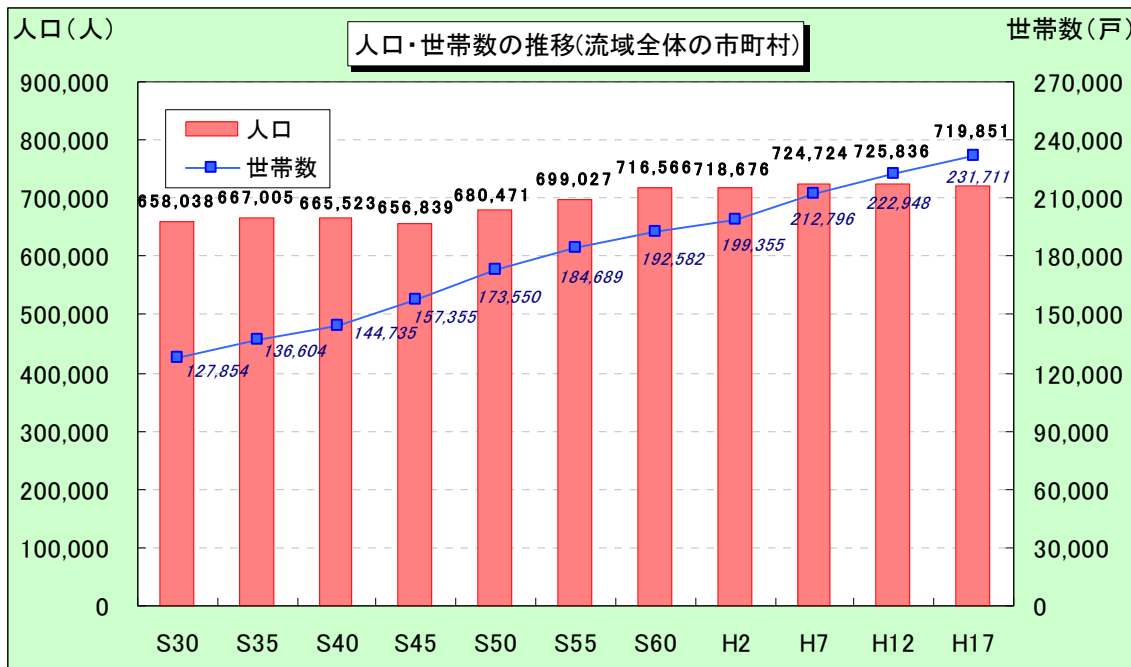


図 7.1-2 (1) 人口及び世帯数の推移

【出典：国勢調査結果、福井県統計年鑑、岐阜県統計書】

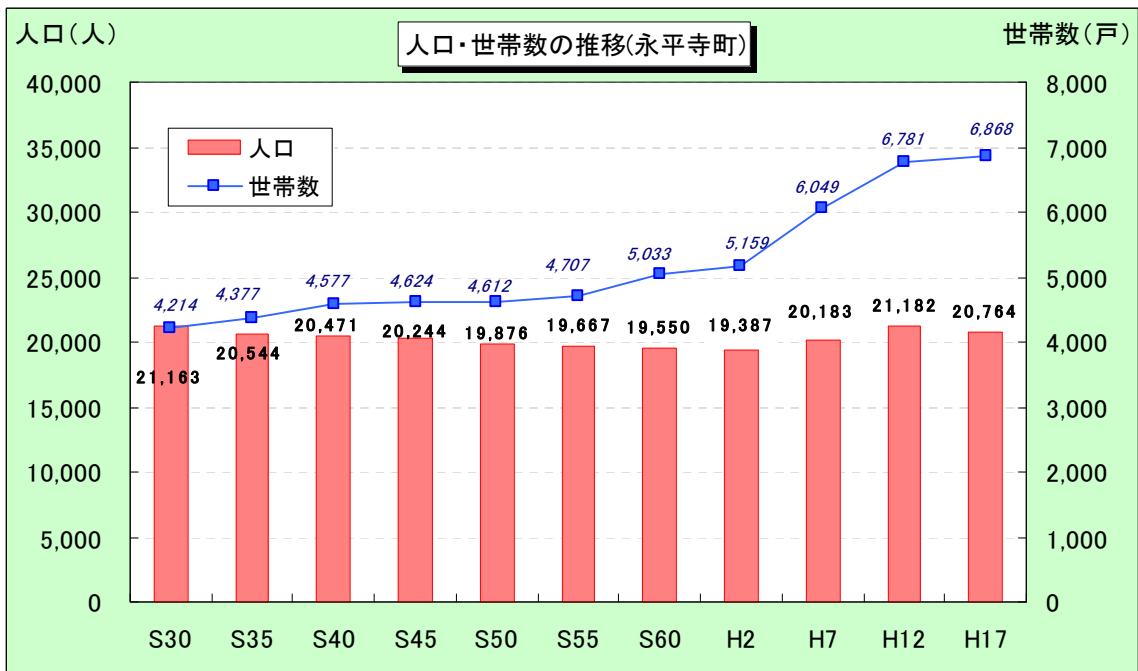
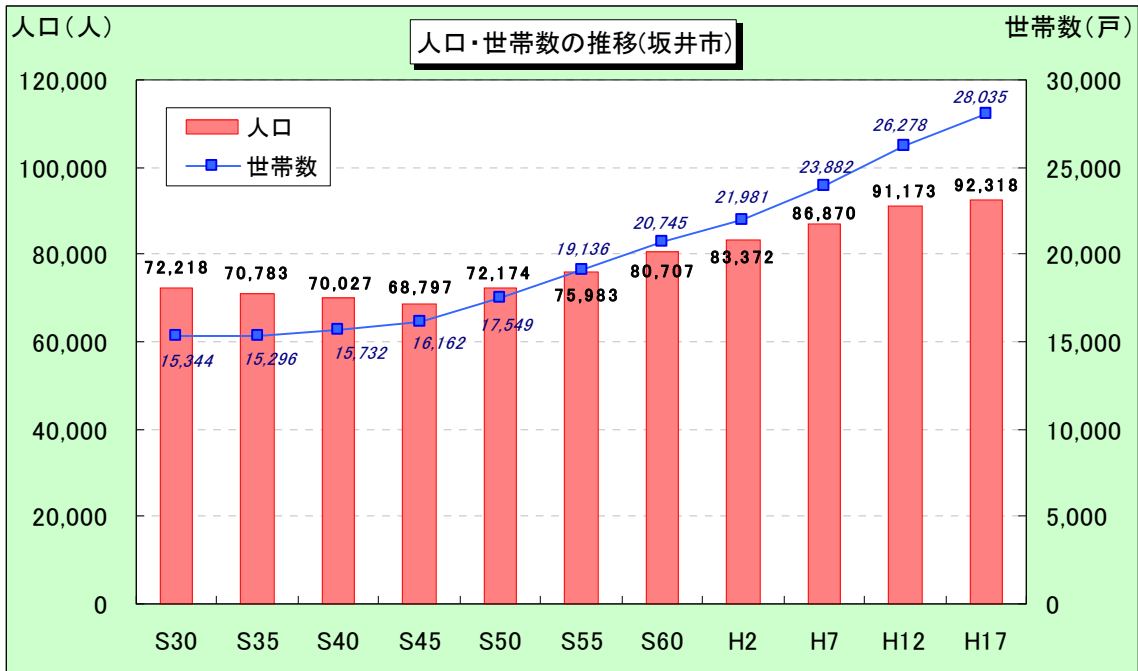


図 7.1-2 (2) 人口及び世帯数の推移

【出典：国勢調査結果、福井県統計年鑑】

### (3) 産業

昭和40年（1965）から平成17年（2005）までの間の流域関連市町村ならびに福井市、坂井市、永平寺町における産業別就業人口の推移は、以下に示すとおりである。

就業者人口は、流域全体および福井市、永平寺町においては、平成7年をピークに減少傾向となっているが、坂井市では福井市等からの移住者等により増加傾向にある。

産業別では、第3次産業が全体の約60%を占めており、第2次産業が35%、第1次産業が5%程度を占めており、第3次産業が増加傾向にある。なお、坂井市においては第2次産業も増加傾向が続いている。

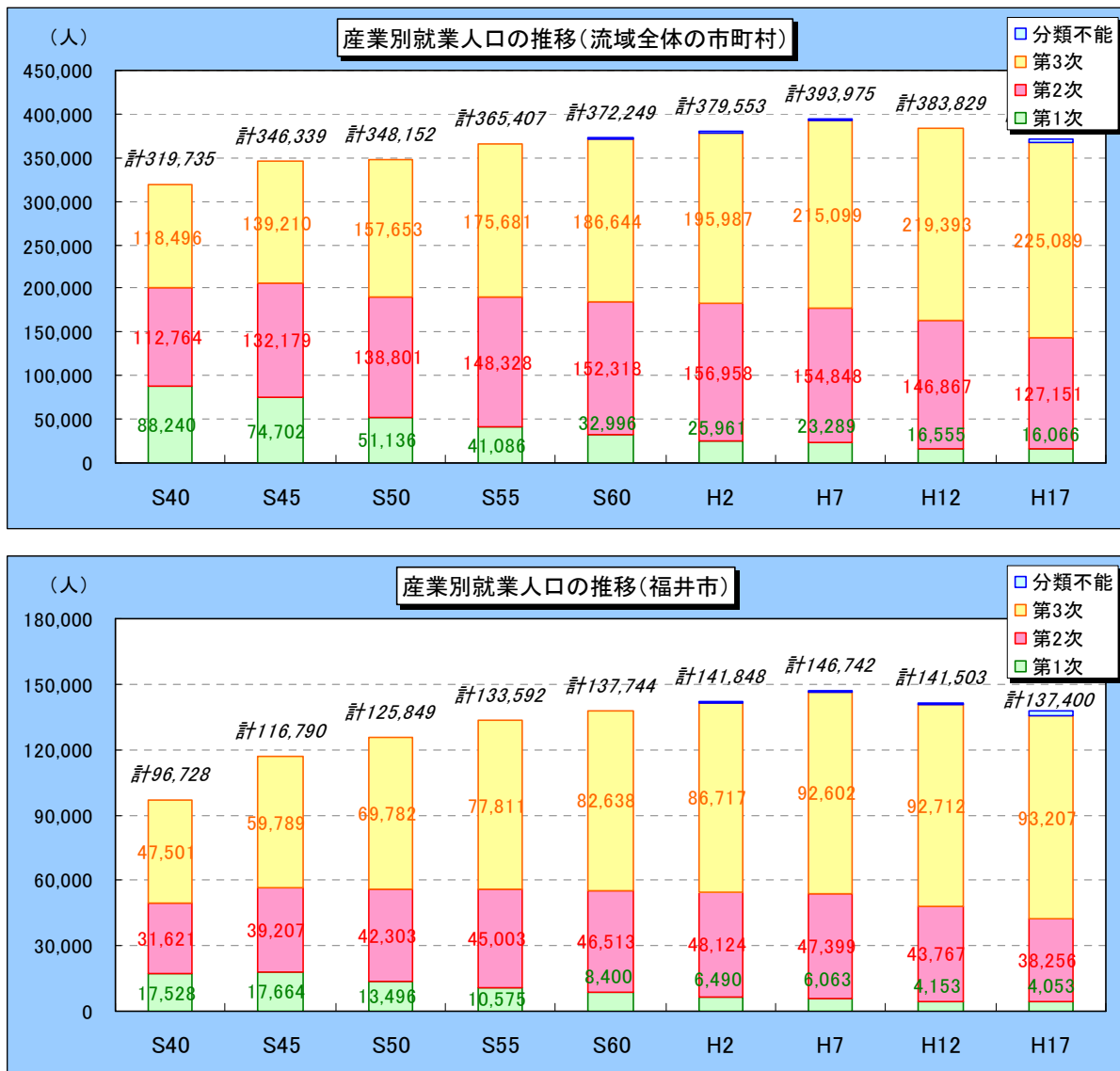


図 7.1-3 流域全体及び福井市の産業別就業人口の推移

【出典：国勢調査結果、福井県統計年鑑、岐阜県統計書】

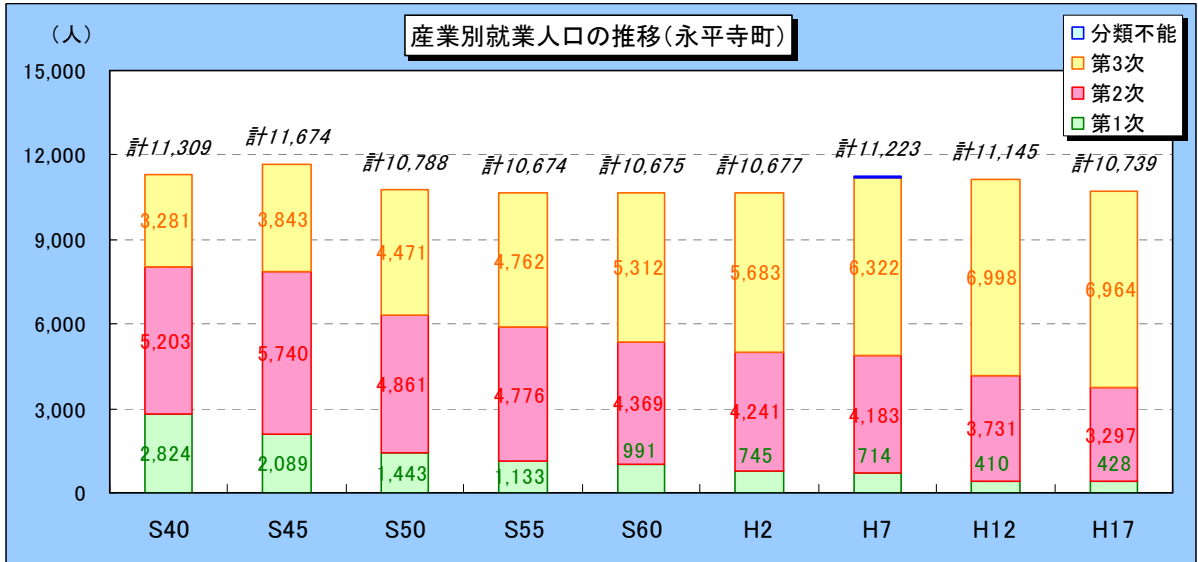
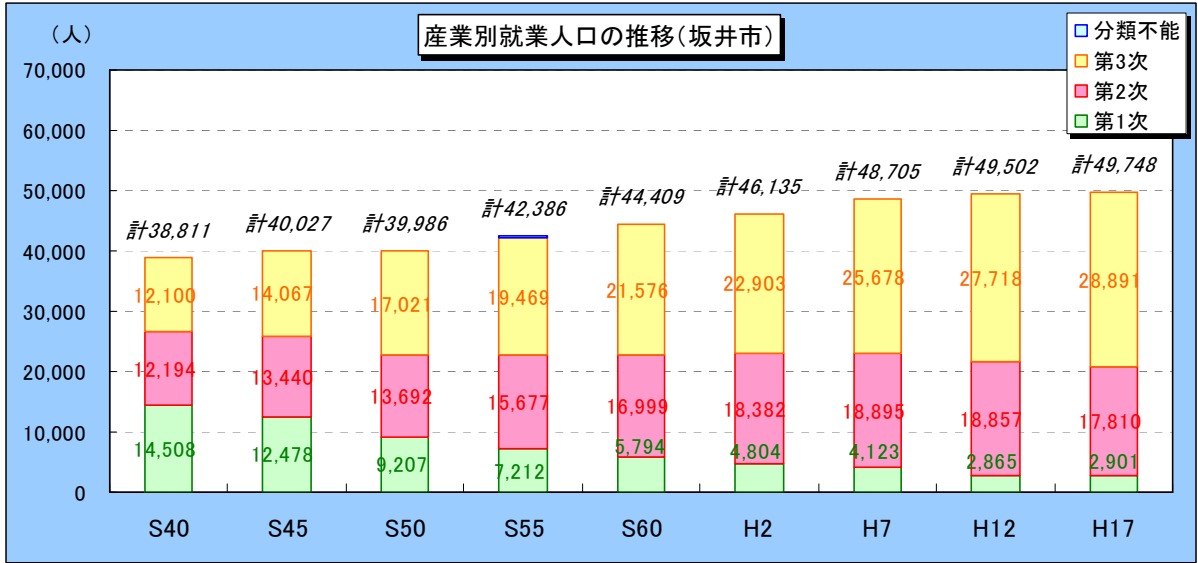


図 7.1-4 坂井市及び永平寺町の産業別就業人口の推移

【出典：国勢調査結果、福井県統計年鑑】

## 7.1.2 堰の立地特性

### (1) アクセス性

鳴鹿大堰は、九頭竜川の河口から約 29km 上流の坂井市と永平寺町の境に位置している。

交通網は図 7.1-5 に示すとおりで、鳴鹿大堰付近は国道 416 号及び 364 号、堰から西へ約 3.5km の地点には北陸自動車道、約 9km の地点には JR 北陸本線が南北に走っている。

鳴鹿大堰へのアクセスは、電車ではえちぜん鉄道勝山永平寺線永平寺口から徒歩 15 分、車では北陸自動車道福井北インターチェンジから国道 416 号を通り約 15 分（約 5km）、JR 福井駅から約 25 分（約 11km）となっている。

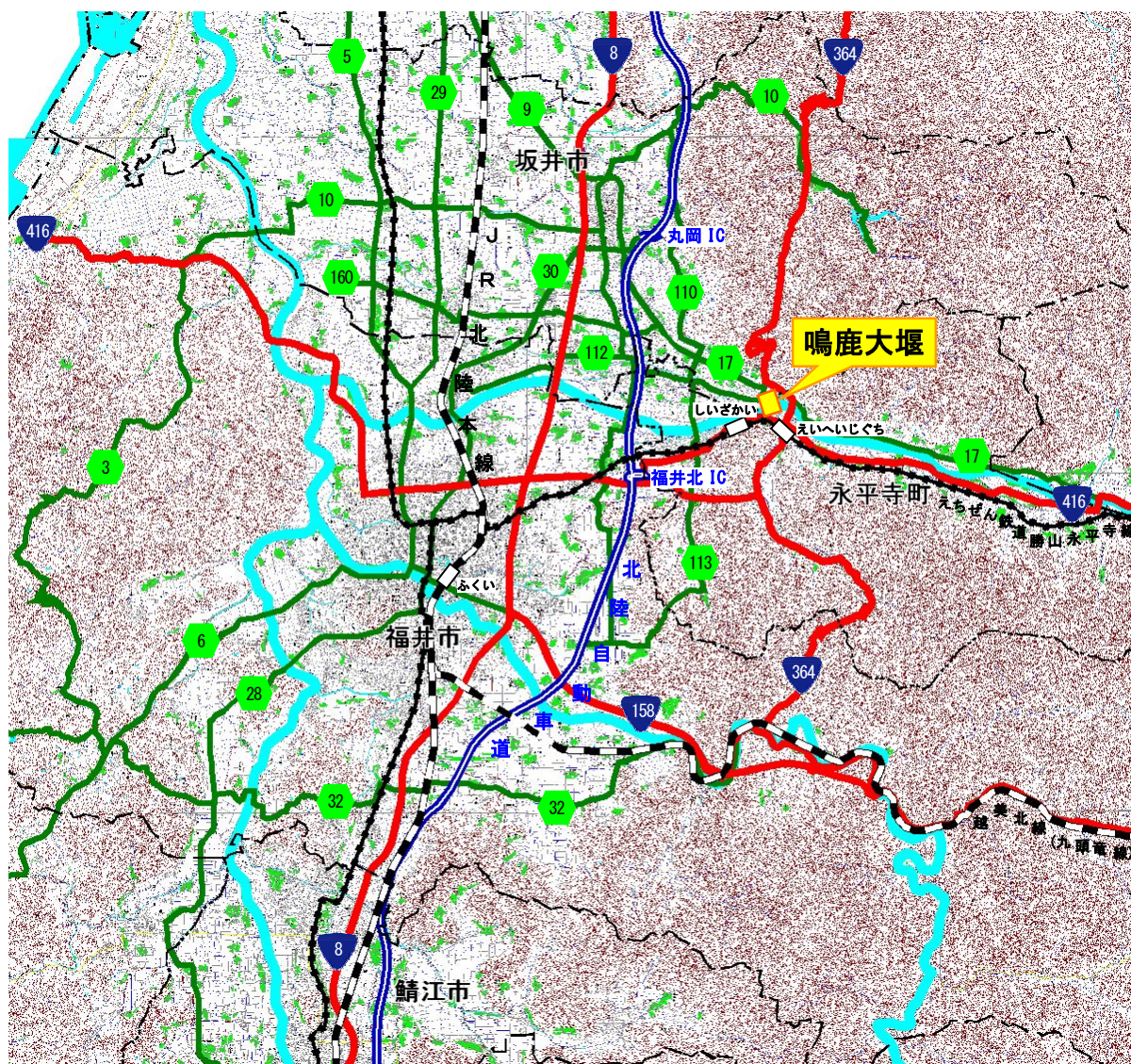


図 7.1-5 鳴鹿大堰周辺の交通網

## (2) 周辺の観光施設（スポット）等の状況

九頭竜川流域は、歴史・文化や水と緑などの自然に恵まれた観光地が多く点在し、年間約1,850万人（福井県全体の約68%）の観光客が訪れる。その代表的な観光資源には、天下の絶景として有名な東尋坊、全国的にも名高い芦原温泉をはじめとする各地の温泉、中世を今に伝える一乗谷朝倉氏遺跡・永平寺・平泉寺・丸岡城、恵まれた森と水を生かしたアウトドアレクリエーションが満喫できる九頭竜湖と九頭竜国民休養地や六呂師高原などといったキャンプ村・スキー場、北陸の秋の風物詩として人気の高い武生菊人形、広大な芝生の中にパットゴルフ場やオートキャンプ場などがあり1年中楽しめるレジャーランドの芝政ワールドなどがある。



図 7.1-6 主な名所・旧跡及び古社寺等の位置

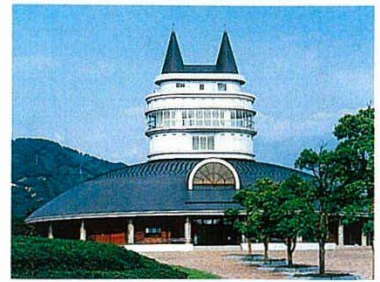




足羽川左岸堤防の桜 (福井市)



勝山橋上下流の弁天堤の桜 (福井市)



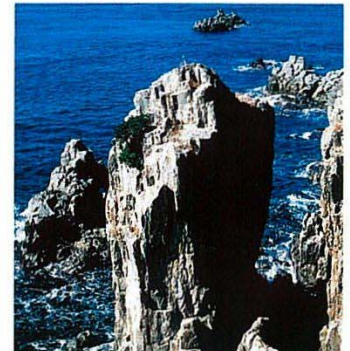
福井県総合グリーンセンター (丸岡町)



大野城 (大野市)



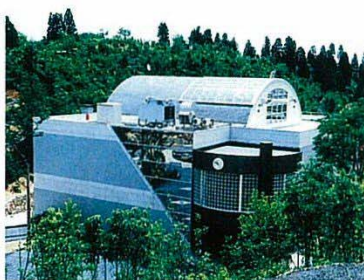
丸岡城 (丸岡町)



奇岩・奇礁が連なる東尋坊 (三国町)



西山公園 (鯖江市)



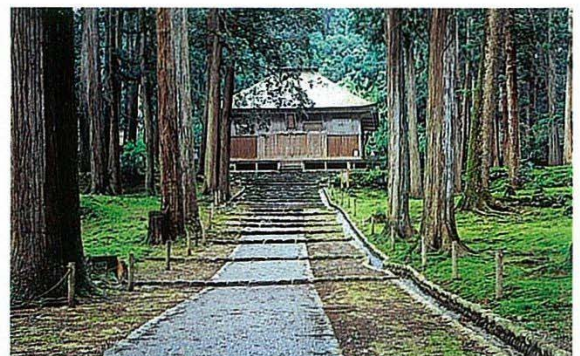
プラントピア (朝日町)



謡曲「花篋」の舞台ともなった花篋公園 (武生市)



狭野茅上娘子と中臣朝臣宅守との相聞歌碑が建つ味真野苑 (武生市)



白山平泉寺 (勝山市)

【出典：九頭竜川流域誌 水との闘い そして共生】



福井藩主の菩提寺である大安禅寺（福井市）



歴代藩主の廟所がある千畳敷（福井市）



一乗谷で復原された武家屋敷と町屋（福井市）



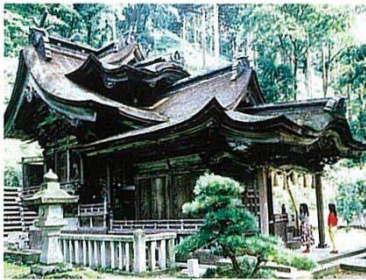
江戸中期の代表的庭園養浩館（福井市）



三間社流造りの滝谷寺（三国町）



曹洞宗大本山永平寺（永平寺町）



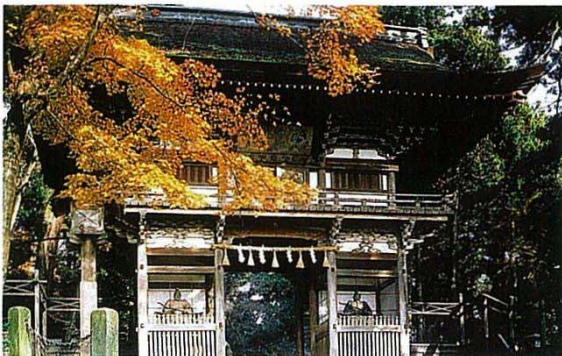
複雑な形をした屋根の大滝神社（今立町）



江戸初期の秀麗な姿をとどめる剱神社（織田町）



楼門形式の山門のある宝慶寺（大野市）



継体天皇を合祀する三国神社（三国町）



継体天皇を合祀する足羽神社（福井市）

【出典：九頭竜川流域誌 水との闘い そして共生】

## 7.2 堰事業と地域社会情勢の変遷

鳴鹿大堰関連事業と地域社会情勢の変遷の概況は表 7.2-1 に示すとおりである。

表 7.2-1 鳴鹿大堰事業と地域社会情勢の変遷

年	鳴鹿大堰関連事業	地域の出来事
H 元.	5月 実施計画調査に着手。 福井工事事務所に開発調査課(鳴鹿大堰担当)設置。 九頭竜川本川区域延長 1.6km。合計 31.2km となる。	福井市市制 100 周年記念式典 福井市都市景観基本計画策定
H 2	1月 九頭竜川中流堰建設促進期成同盟会が発足 6月 九頭竜川鳴鹿大堰建設事業に着手 12月 大野市がダム使用権設定について申請書提出	足羽川・足羽山公園が「日本の桜百選」に選定、桜づつみ事業着手
H 3	11月 基本計画告示(事業費 280 億円、工期平成 8 年度)	足羽山トンネル完成 一乗谷朝倉氏庭園が国の特別史跡に指定
H 4	11月 鳴鹿大堰起工式 右岸取水施設改築工事着手	第四次福井市総合計画スタート
H 5	3月 左岸取水施設改築工事着手	
H 6	3月 九頭竜川鳴鹿大堰本体着工 本体ゲート着工	すかつとランド九頭竜オープン
H 7	3月 中部漁業協同組合と、漁業補償の契約を締結 4月 九頭竜川鳴鹿大堰定礎式 6月 本体内右岸部概成 10月 本体内左岸部概成	
H 8	6月 堰本体概成	
H 9	3月 九頭竜川鳴鹿大堰建設に伴う鳴鹿頭首工(取水施設を含む)の工事施行の変更協定書を締結。	
H 10	2月 基本計画変更が官報告示される。	
H 11	3月 試験湛水(暫定運用)開始 通水式挙行 10月 旧堰撤去(左岸部)工事着手	
H 12	8月 左岸魚道完成	
H 13	6月 旧堰撤去(右岸部)完了	
H 14	4月 資料館がオープン	21 世紀を拓くふくい創造プラン(第 5 次福井市総合計画)スタート
H 15		えちぜん鉄道全線開通
H 16	3月 竣工	福井豪雨災害発生

【出典：九頭竜川鳴鹿大堰工事誌、福井県ホームページ】

## 7.3 堰と地域の関わりに関する評価

### 7.3.1 地域における堰の位置づけに関する整理

#### (1) 坂井市総合計画

平成 18 年 3 月 20 日、旧三国町、旧丸岡町、旧春江町、旧坂井町は、地理的、歴史的特性を共有しつつ、地域の特性を活かしながらより広域的な視点でまちづくりを推進していくことを目指して合併し、「坂井市」が誕生した。坂井市では、市の行政運営の指針となる「坂井市総合計画」を策定している。

同計画では、まちづくりの方針として 3 つの軸を定めており、そのうち「水と緑の交流軸」では、福井県のシンボル河川である九頭竜川等を活かし、親水空間などの整備に努め、水と緑の交流軸を形成していくとしている。

#### ● 3つの軸 .....

##### ■にぎわいの連携軸

東西に長い坂井市の一体性や連携を強化するため、東西方向の骨格道路網を形成し、住民相互の日常的な交流や文化交流などを促進するとともに、坂井市の活力を創造する都市活動、観光交流などを展開します。

##### ■南北交流軸

一般国道 8 号をはじめとする南北方向の骨格道路網を充実し、地域や圏域を越えた広域的な交流を推進していきます。

また、坂井市域内においても幹線道路の拡幅整備や沿道環境整備に努め、住民相互の日常的な交流や文化交流などの促進、活力を創造する都市活動などを展開し、市域内の連携と一体性を高めていきます。

##### ■水と緑の交流軸

緑豊かな森林地域を源流とする竹田川や福井県のシンボル河川である九頭竜川、坂井平野を潤す数々の河川、さらには農業用水路のパイプライン化にともなう跡地を活かし、散策路や自転車道、親水空間などの整備に努め、水と緑の交流軸を形成していきます。

図 7.3-1 坂井市総合計画 まちづくりにおける3つの軸

【出典：坂井市総合計画 平成 20 年 3 月】

#### (2) 永平寺町総合振興計画

平成 18 年 2 月 13 日に旧松岡町、旧永平寺町、旧上志比村の 3 町村が合併し、「永平寺町」が誕生した。永平寺町では、10 年のまちづくりの指針として、「永平寺町総合振興計画」を策定している。

同計画では、産業の活性化のため、九頭竜川などの地域の資源を活かした観光の振興など地域の特色と産業の融合を図っていくことを掲げている。

【出典：永平寺町総合振興計画 平成 20 年 3 月】

### 7.3.2 地域と堰管理者の関わり

九頭竜川流域防災センターでは、鳴鹿大堰の役割を中心に治水、利水、河川環境について理解を深めるイベントや、鳴鹿大堰と九頭竜川に親しみながら自然を学ぶための環境学習を実施しており、地域との交流を図っている。

## 7.4 堰周辺の状況

### 7.4.1 堰周辺の施設状況

#### (1) 概要

鳴鹿大堰周辺の施設としては、九頭竜川に関するさまざまな資料を展示している九頭竜川流域防災センター、階段式魚道の様子がみられる魚道観察室、旧鳴鹿堰堤の堰柱を利用して造られた見学橋、鳴鹿橋上流部左岸側(30.5～30.9km 付近)に設けられたビオトープ等を整備した。

#### (2) 九頭竜川流域防災センター（愛称：わくわく RiverCan）

「九頭竜川流域防災センター（愛称：わくわく RiverCan）」は、鳴鹿大堰左岸にある鳴鹿大堰管理所脇に建設され、平成 14 年 4 月 27 日にオープンした。この資料館は、地域の子供たちが九頭竜川について体験的に学べるよう、九頭竜川に関する様々な資料を展示するとともに九頭竜川流域の方々が集える場所として活用することを目的としており、NPO法人「ドラゴンリバー交流会」、「福井陸水生物研究会」とも連携している。



図 7.4-1 九頭竜川流域防災センターの外観

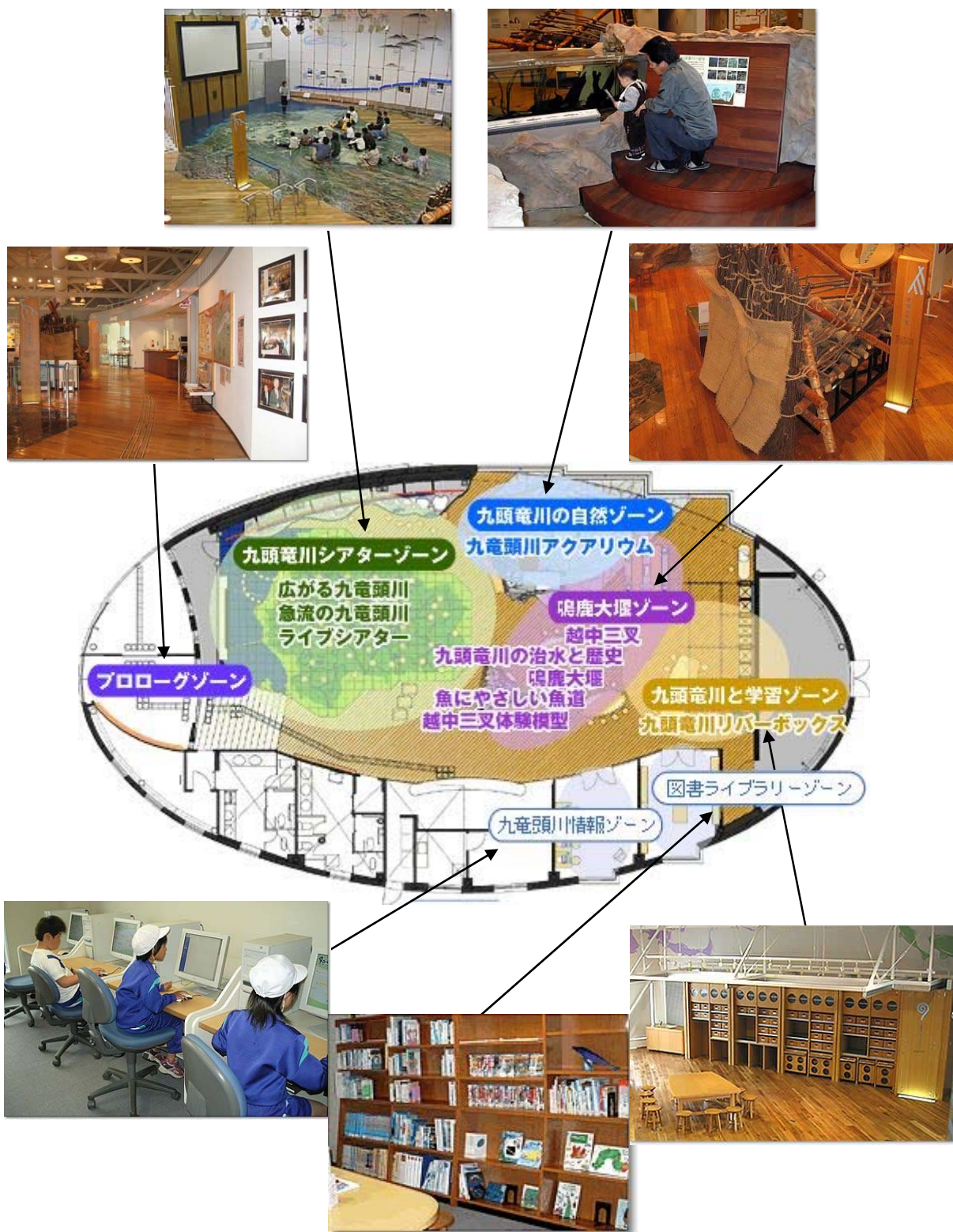


図 7.4-2 九頭竜川流域防災センターの展示施設

### (3) なるほど！鳴鹿大堰ふれあいゾーン

「なるほど！鳴鹿大堰ふれあいゾーン」は、鳴鹿大堰管理所1階のエントランス部を利用した展示施設である。鳴鹿大堰管理所エントランス部は、完成当初より鳴鹿大堰の役割やしぐみについて解説するための展示スペースとして利用されていたが、平成17年度に展示内容の更新が行われ、より一層充実した内容となった。

展示は鳴鹿大堰の歴史、鳴鹿大堰の役割、鳴鹿大堰魚道のしぐみについて解説するものであり、電動模型や映像などを活用し、子供から大人まで楽しめる内容となっている。



映像による鳴鹿大堰の紹介や模型展示によるゲートの解説



鳴鹿大堰魚道の縮小模型およびライブ映像の放映

図 7.4-3 「なるほど！鳴鹿大堰ふれあいゾーン」



#### (4) 魚道観察室

鳴鹿大堰には、階段式魚道、人工河川式魚道（平常用）及びデニール式魚道（渇水時の呼び水水路の水量減少時）の3種類の魚道が設けられており、魚が魚道をのぼっていく様子を観察できるよう、階段式魚道の横に観察室が設置されている。魚道観察室は一般に開放されており、九頭竜川流域防災センターと一体の運営が行われている。また、魚道にはライブカメラが設置されており、九頭竜川流域防災センターの中からも魚道の様子を観察することができる。



#### (5) 見学橋

旧鳴鹿堰堤は、昭和29年に完成し、福井平野の利水にとって約半世紀の歴史ある施設であったため、利水の歴史を残す意味からも、旧鳴鹿堰堤関連施設のうち、利用可能な管理橋・堰柱を完全に撤去せず、見学橋としてほとんど原形で使用している。

見学橋からは、堰直上流から鳴鹿大堰を眺望することができ、全国的に見ても珍しい施設である。



図 7.4-4 一般解放区及び見学橋の外観

(6) ビオトープ

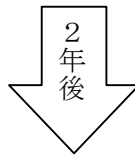
鳴鹿橋上流部左岸側(30.5~30.9km 付近)に「自然な河川草地のビオトープ」をコンセプトにビオトープを整備した(平成14年5月完成)。



図 7.4-5 ビオトープの整備方針

整備方針

植生	九頭竜川流域でよく見られる「自然な河川草地」を復元する中で、環境教育の場をつくり、周辺流域にある重要種を保存する場を確保する。 ○基本的植生：ツルヨシ、クサヨシ、オギ、ミゾソバ等 ○重要種植生：カワヂシャ、フジバカマ、ミクリ
基本的植生を復元する区域	手入れを行い安全に子供たちが入ることのできる場所と、より自然な姿で管理する場所に区分する。高木植栽が可能な箇所でのカワヤナギ、タチヤナギの復元、また堤防側のエノキ林の復元を検討する。
湧水池の築造	湧水池は水質の変化による環境の多様化を意図して、水位の異なる3つの池に分割する。
高水敷の地形	現状の棚田状地形を利用し、わずかな高低差をつけることで、植生を多様化する。
草本類の移植	地域に特有の遺伝子を残す意味で、現場に生えている草本類を地下茎ごと取って保管し移植する。
住民参加	自然環境の復元を住民参加の移植作業等により促進し、河川敷の自然環境を住民参加の管理により維持していく。
子供たちとの関わり	計画地周辺のモニタリング調査を近隣の小・中学校の課題とし、ビオトープの生物学的な評価を任せることも考えられる。さらに、その結果からビオトープの目標生物についてさらに詳しく検討することは、地域住民との双方向的なコミュニケーションを重視した、柔軟な河川環境整備手法である。

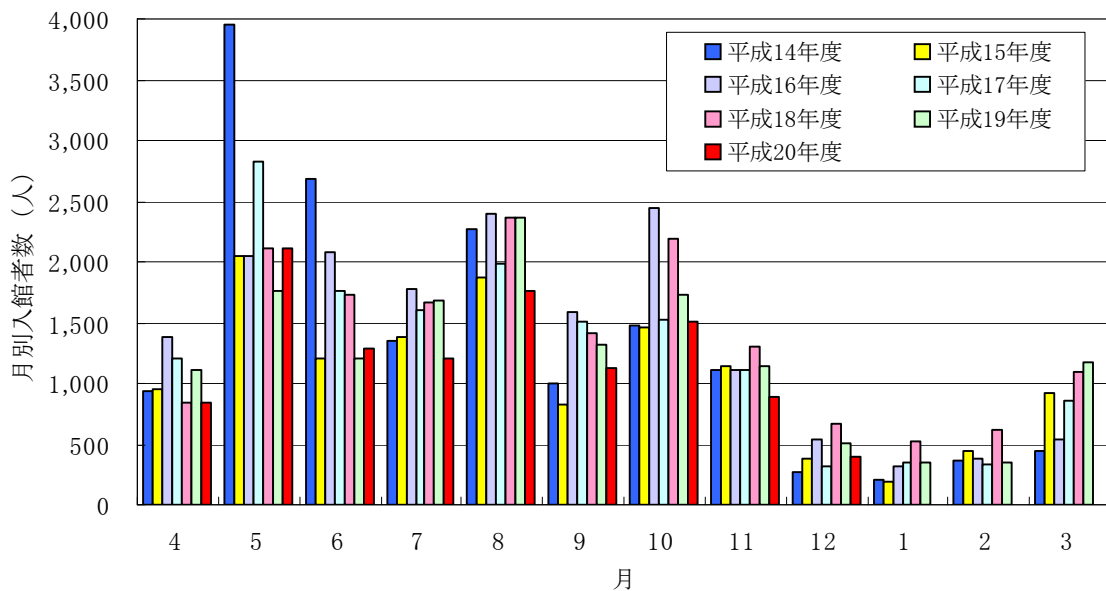
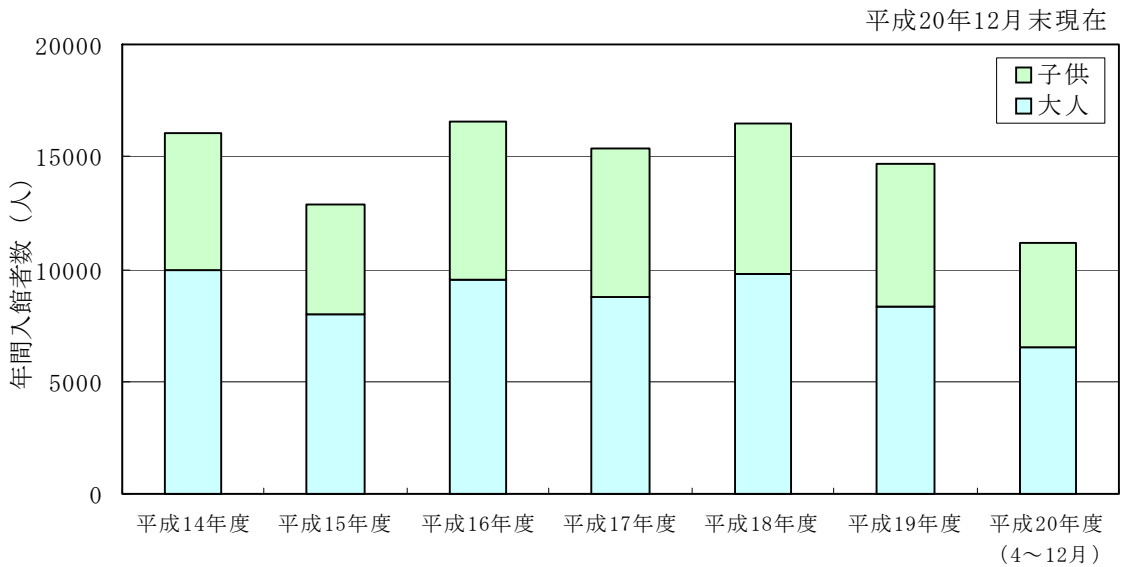


## 7.4.2 堰周辺の施設の利用状況

### (1) 施設の利用状況

九頭竜川流域防災センターの平成14年4月27日～平成20年12月31日までの入館者数の推移を下記に示す。

平成20年度は11,127人が利用しており、平成14年4月27日の開館以来の総入館者数は103,203人となり、開館から7年目で10万人を越えた。月別入館者数をみると、資料館が開催するイベントや遠足など学校の行事の多い5月から8月にかけて多く、12月から3月の冬期に少なくなる傾向がみられる。大人と子供（小学生以下）では、大人の利用が多く、本施設は子供から大人まで幅広い年齢層に利用されていることが分かる。



【出典：九頭竜川鳴鹿大堰フォローアップ平成20年次報告書】

図 7.4-6 九頭竜川流域防災センター入館者数（H14年度～H20年度）

## (2) 利用内容

九頭竜川流域防災センターでは、鳴鹿大堰の役割を中心に治水、利水、河川環境について理解を深めるイベントや、鳴鹿大堰と九頭竜川に親しみながら自然を学ぶための環境学習を実施している。平成20年度のイベントおよび環境学習の実施状況を表7.4-1に示す。

表 7.4-1 イベント・環境学習実施状況

月 日	イベント名	目的・内容
7/1 (火) 7/19 (土) 7/31 (木) 8/4 (月)	第1回イベント 歩いて知ろう！ 九頭竜川と鳴鹿大堰	鳴鹿大堰とその周辺を、鳴鹿大堰や治水・利水・環境にちなんだ問題に答えながら歩くことによって、九頭竜川や鳴鹿大堰に対する興味、関心を高めてもらう。
7/26 (土)	第2回イベント 水辺の植物観察会	九頭竜川流域防災センター周辺や九頭竜川川原の植物を観察したり、植物標本を作ることによって川と人や植物との関わりを考える。
8/8 (金)	第3回イベント 九頭竜川を調べよう	水生昆虫を調べることを通して川や水に親しみ、自然を愛護する心を養う。
8/12 (火)	第4回イベント 川に学ぼう	牛乳パックで水中メガネを作って川の中の生き物を調べる。笹舟や水中鉄砲での水遊び、魚釣りや自然観察。
8/3 (金)	第5回イベント サケの学習	九頭竜川を遡上するサケの人工授精から放流までの学習を通して生命の尊さ、河川環境や自然保護の必要性や方策について考える。

【出典：九頭竜川鳴鹿大堰フォローアップ平成20年次報告書】



第1回イベント  
歩いて知ろう！九頭竜川と鳴鹿大堰



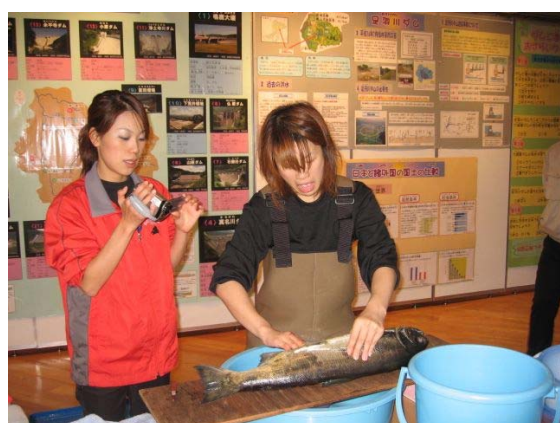
第2回イベント  
水辺の植物観察会



第3回イベント  
九頭竜川を調べよう



第4回イベント  
川に学ぼう



第5回イベント  
サケの学習



サケ旅立ちのつどい (H21. 3. 6)  
新聞記事：福井新聞 3. 7 朝刊

【出典：九頭竜川鳴鹿大堰フォローアップ平成20年次報告書（サケ旅立ちのつどいを除く）】

### (3) 環境学習

鳴鹿大堰管理所および九頭竜川流域防災センターでは、小中学生の環境学習として水生生物による水質判定の指導を行っている。

#### ① 学習内容の概要

総合学習の一環として水生生物（底生動物）の種類や生息場所を知り、さらにそれらを指標に河川の水質を学び、河川環境への理解を深めることを目的とする。

学習内容は、現地調査（水生生物の採集）および採集した水生生物の観察・同定、簡易水質検査（パックテスト）などであり、学習時には底生動物調査や環境学習に経験のある運営員が指導にあっている。

#### ② 実施場所

観察や同定実習は九頭竜川流域防災センターを利用し、水生昆虫の採集は九頭竜川で行っている。

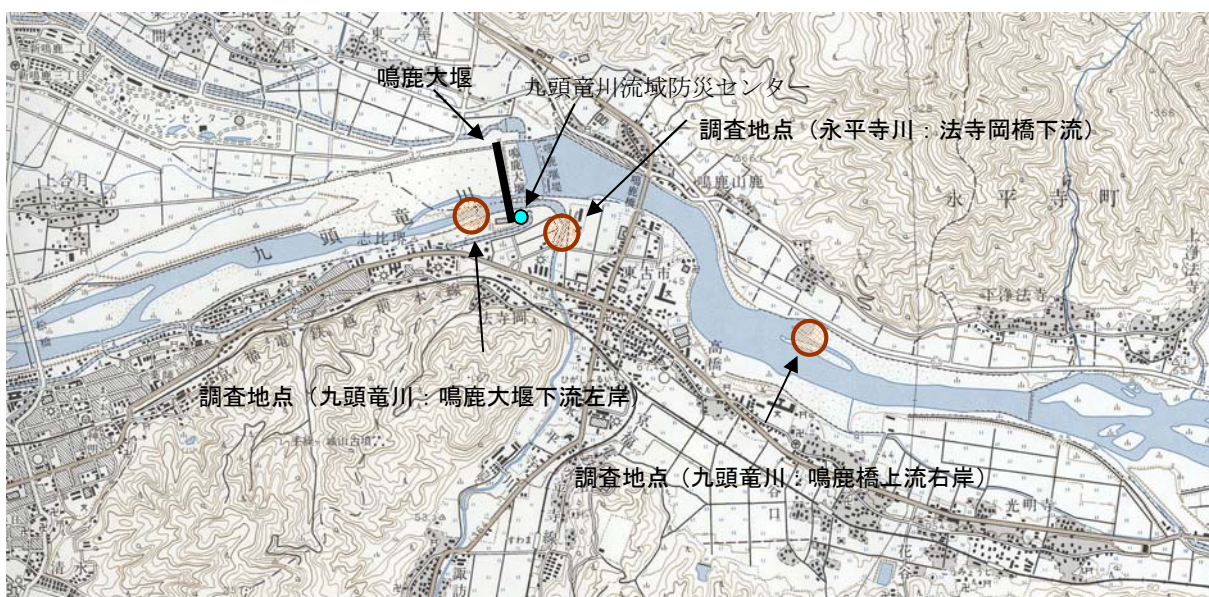


図 7.4-7 環境学習実施地点位置図 (S=1:25,000)

#### ③ 実施時期

夏休みを中心に6月～8月にかけて実施した。



九頭竜川での水生昆虫採集



九頭竜川流域防災センターでの室内実習

【出典：九頭竜川鳴鹿大堰フォローアップ平成20年次報告書】

#### (4) 利用者からの意見・要望

九頭竜川流域防災センターの利用者からの主な意見および要望を以下に整理した。

表 7.4-2 利用者からの意見・要望

施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料館への道路標識が分かりにくく、道幅が狭い。</li> <li>・軽食や休憩がとれるスペースを設置してほしい。</li> <li>・子供達が自由に言葉や絵を書くコーナーの設置があればよい。</li> <li>・手押し車等で、高齢者でも見やすい工夫。</li> <li>・映像を見る時、高齢者には背もたれ付きの椅子を提供。</li> </ul>
展示内容	<p><b>【全般】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生や高校生、成人向けのガイダンスや展示物、企画もあるとよい。</li> <li>・鳴鹿大堰の変遷がわかる歴史的な資料があるとよい。</li> <li>・現在の堰堤は機械化されているが、昔はこういう道具を使って工夫がなされていたなど、現在と昔の違いをわかりやすく説明した資料があればよい。</li> <li>・流域周辺に住む人々の暮らしの変化などがわかる資料。</li> <li>・洪水と戦ってきた先人のエピソード。</li> <li>・施設ができる前と後で、どんな効果があったかを示したデータ。</li> <li>・水利用の恩恵状況が具体的にわかる資料やデータ。</li> </ul> <p><b>【映像】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・以下のような映像があればよい             <ul style="list-style-type: none"> <li>- 九頭竜川上流、中流、下流の様子。</li> <li>- 実際にゲートが開閉されている時の様子。</li> <li>- 大雨の時の堰の様子と穏やかな時の様子を比較した映像。</li> <li>- 九頭竜川や鳴鹿大堰の昔の写真や映像。</li> <li>- 九頭竜川の生態系についての映像。</li> <li>- 流域付近の地域の四季の風景やその恩恵を得ている様子。</li> </ul> </li> </ul> <p><b>【展示物】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・展示物として以下のようなものがあればよい             <ul style="list-style-type: none"> <li>- 九頭竜川周辺の立体模型。</li> <li>- 水が流れる様子がわかるように、洪水時にゲートを動かせるような仕組みの鳴鹿大堰の模型。</li> <li>- 川魚の模型、種々の魚の生態についての資料。</li> <li>- 水生昆虫の詳細な資料、水槽。</li> <li>- 魚の水槽に絵入りの説明書き、種類ごとに分類。</li> </ul> </li> <li>・魚や川との暮らしの絵のコンクールを行って展示する。</li> <li>・航空写真、床面の地図等に、福井市役所や学校名、地域名などの目印があると、自分の住んでいる場所がみつけやすいし、子供たちの興味がわく。</li> </ul>
魚道観察室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・魚道トンネルの中にもう少し展示物や掲示物を増やすと観察の役に立つ。</li> <li>・魚道観察室に水槽を置き、遡上している魚と見比べる。</li> <li>・魚道観察について、下からも眺められるとおもしろい。</li> <li>・足の不自由な人や車椅子の人のために、魚道見学にスロープを設置してほしい。</li> </ul>
説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲームの仕方（機器の使い方）がわからない子供には、説明を加えてほしい。</li> <li>・演出が少し過剰に思えた。維持管理費のことを考えもう少しシンプルに。</li> <li>・丁寧な説明であるが、もう少し物的証拠を見せて欲しい。</li> <li>・子供達にとっては少し情報量が多すぎる。</li> <li>・ハンドマイクの使用は、近くの人には分かるが少し離れた人は聞き難い。</li> </ul>
広報・PR	<ul style="list-style-type: none"> <li>・魚については近くに内水面総合センターがあるので、人と川との関わりを楽しく学ぶことができることを中心に PR すると、遠足などでの利用者が増加すると思う。</li> <li>・すばらしい施設なのに広報がまだまだ不足していると思う。流域市町にパンフレットを置くなどするとよいと思う。</li> </ul>



## 7.5 景観に関する調査結果

### (1) 調査概要

#### <調査目的>

土地の改変等が周辺の景観資源に及ぼす影響を確認するため。

#### <調査実施状況>

旧堰撤去後と大堰完成時の合計2回。

#### <調査方法>

新堰を含めた近傍の景観を見渡すことのできる眺望点から写真撮影（航空写真含む）を行う。

### (2) 調査結果

鳴鹿大堰資料館の来訪者を対象に実施した鳴鹿大堰景観に関するアンケートの結果を以下に示す。

アンケート結果より、約7割の人が鳴鹿大堰の景観は違和感がないと答えており、来訪者には概ね良好な印象を与えていると言える。

#### 1. 概要

鳴鹿大堰事業では、構想段階より関係者による検討委員会を開催し、景観形成に取り組んできた。

国土交通省所管公共事業における基本方針（案）を背景に、景観形成に携わる関係者の多様な意見を聴取したうえで景観評価を行うため、鳴鹿大堰が事業完成後において、「景観整備方針」に基づき適切に形成されているかについて事後評価をするため、住民等を対象としたアンケート調査により、意見聴取を行った。

#### 2. 実施内容

- (1) 実施時期 平成16年12月～平成17年1月
- (2) 実施場所 資料館
- (3) 対象者 鳴鹿大堰資料館来訪者
- (4) 実施方法 来訪者に対する直接依頼

#### 3. 集計結果

アンケートは、単純集計によりとりまとめた。

#### 4. まとめ

- (1) アンケート回答者の構成は、男性が58.1%を占めていた。また、年齢層では61歳以上が38.7%と最も比率が高く、以下41歳～60歳、21歳～40歳と低くなっている。
- (2) 景観整備の具体的な方針に関する設問については、Q1を除いて70%以上が「はい」の回答を選択し、全体として肯定的な意見となっていた。
- (3) Q1については、「はい」は61.3%であるが、「その他」「いいえ」の回答のなかに

コメントが添えられているものが3件あった。

- ① 「その他」・・・舟に似ている
- ② 「その他」・・・鹿鳴館\*1
- ③ 「いいえ」・・・言われてみれば（そう思う。）

コメントの内容を見ると、①では「鳴鹿の舟橋」に近いイメージがあり、②の鹿鳴館（\*1）からは標準的な堰の改善イメージや、堰柱の材質から感じる歴史的建造物のイメージ等が連想され、いずれも肯定的な回答であると考えられる。

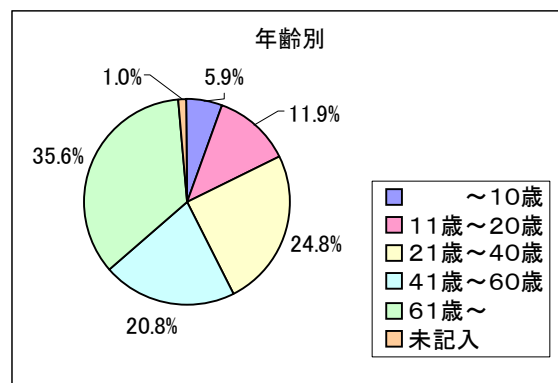
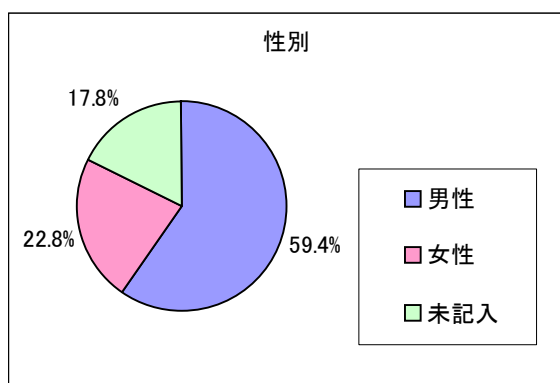
- (4) 「どちらでもない」「その他」の中間的回答が、Q2からQ5においては、10件前後（構成比7.9%～13.9%）であるが、Q1では21件（構成比20.8%）を占めている。このことは、アンケートの設問が「鳴鹿の舟橋」「鹿」とかなり具体的に示していたため、近いイメージをもったとしても、中間的な「どちらでもない」「その他」等の選択をして、結果的にその回答が多くなったと考えられる。

- \* 1 鹿鳴館：明治期に「外国人接待所」として建造された煉瓦造2階建ての建物。本格的な西洋建築の実現を期して、イギリス人建築家によって設計された。  
鹿鳴の名は詩経「鹿鳴の詩」からの引用と言われている。

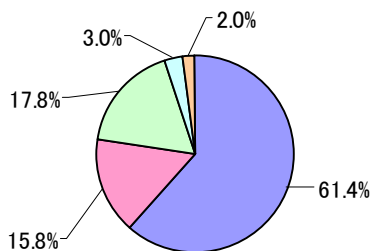
(Wikipedia より抜粋)

- (5) Q3からQ4の回答で、未記入が13～14件と急に増加しているのは、回答用紙が両面であるため、裏面の記載がされなかったものと考えられる。

## 5. アンケート結果

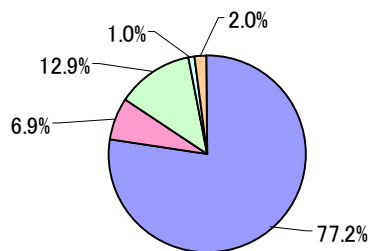


Q1: 鳴鹿大堰の堰柱は、「鳴鹿の船橋」「鹿」からデザインしていますが、イメージできますか？



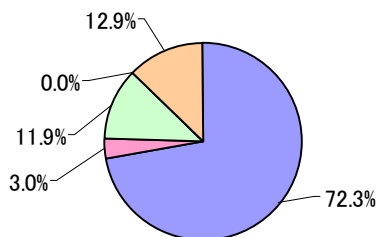
■ はい      ■ いいえ  
■ どちらでもない      ■ その他  
■ 未記入

Q2: 鳴鹿大堰のゲート施設は不安定感を解消するため、油圧直吊り式としていますが、安定感のあるイメージを感じますか？



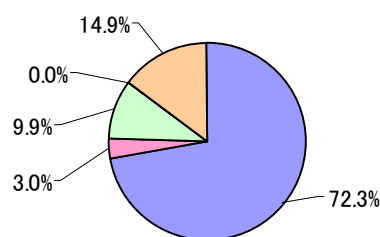
■ はい      ■ いいえ  
■ どちらでもない      ■ その他  
■ 未記入

Q3: 鳴鹿大堰の橋面(高欄、照明、通路)は、九頭竜川や背景と調和したデザインしていますが、周辺の景観と調和していると思われませんか？



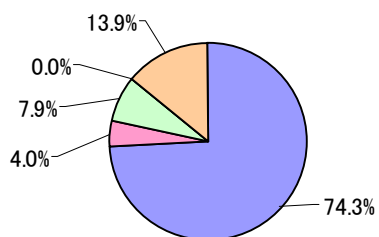
■ はい      ■ いいえ  
■ どちらでもない      ■ その他  
■ 未記入

Q4: 鳴鹿大堰の施設は、周辺環境と調和した彩色としていますが、周辺の景観と調和していると思われませんか？



■ はい      ■ いいえ  
■ どちらでもない      ■ その他  
■ 未記入

Q5: 鳴鹿大堰や資料館などの周辺施設は、九頭竜川や周辺地形に溶け込んだイメージとなっていますか？



■ はい      ■ いいえ  
■ どちらでもない      ■ その他  
■ 未記入

【出典：九頭竜川鳴鹿大堰モニタリング調査報告書 平成17年3月】

## 7.6 河川水辺の国勢調査（河川空間利用実態調査）結果

九頭竜川では、3年毎に河川水辺の国勢調査（河川空間利用実態調査）を行い、河川の利用状況を調査している。

鳴鹿大堰下流（27.0～28.0km）には、松岡町河川公園として、マレットゴルフ場を中心に芝生広場やせせらぎ水路等が整備されている。平成18年度調査によると、主に散策、マレットゴルフ、デイキャンプ、水遊び、魚釣り等に利用されており、川に親しむ空間を提供している。



【出典：平成18年度九頭竜川水系河川水辺国勢調査業務河川空間利用実態調査報告書 平成19年3月】

図 7.6-1 鳴鹿大堰周辺の利用状況

## 7.7 まとめ

### 7.7.1 堰と周辺地域との関わりのまとめ

鳴鹿大堰は、福井市の上流に位置しており、周辺には歴史・文化や水と緑などの自然に恵まれた観光地が多く点在している。

鳴鹿大堰建設事業の一環として、管理所に隣接して九頭竜川流域防災センターを整備しており、年間およそ 15,000 人の利用者がある。九頭竜川流域防災センターは、九頭竜川流域の人々が集える場所として活用することを目的としており、NPO 法人とも連携し、地域との交流を図っている。鳴鹿大堰の役割を中心に治水、利水、河川環境について理解を深めるイベントを開催したり、鳴鹿大堰や九頭竜川に親しみながら自然を学ぶための環境学習等を実施したりすることにより、地域との交流を図っている。

また、鳴鹿大堰は周辺の景観を考慮した設計がなされており、来訪者にも良好な印象を与えている。

### 7.7.2 今後の方針

地域のイベントや環境学習などの場を引き続き提供していくとともに、快適な利用のための維持管理を行っていく。

## 7.8 文献リスト

表 7.8-1 「7.堰と周辺地域との関わり」に使用した文献・資料リスト

NO.	文献・資料名	発行者・出典	発行年月	引用ページ・箇所
7-1	九頭竜川流域誌	近畿地方整備局 福井河川国道事務所	平成 14 年 3 月	7.1.1 堰周辺地域の概要 7.1.2 堰の立地特性
7-2	国勢調査結果(市町村の人口) 福井県ホームページ 福井県統計年鑑	福井県	(昭和 30 年～平成 17 年のデータ)	7.1.1 堰周辺地域の概要
7-3	岐阜県ホームページ 岐阜県統計書	岐阜県	(昭和 30 年～平成 17 年のデータ)	7.1.1 堰周辺地域の概要
7-4	国勢調査結果 (世帯数・産業別就業者数)	総務省統計局	(昭和 30 年～平成 17 年のデータ)	7.1.1 堰周辺地域の概要
7-5	九頭竜川鳴鹿大堰工事誌	近畿地方整備局 福井河川行動事務所	平成 18 年 3 月	7.2 堰事業と地域社会情勢 の変遷
7-6	坂井市総合計画	坂井市	平成 20 年 3 月	7.3.1 地域における堰の位 置づけに関する整理
7-7	永平寺町総合振興計画	永平寺町	平成 20 年 3 月	7.3.1 地域における堰の位 置づけに関する整理
7-8	九頭竜川鳴鹿大堰モニタリング調 査報告書	財団法人 ダム水源地環境 整備センター	平成 17 年 3 月	7.4.1 堰周辺の施設状況 7.5 景観に関する調査結果
7-9	九頭竜川流域防災センターホーム ページ ( <a href="http://www.river-can.go.jp/kuzuryu/index.htm">http://www.river-can.go.jp/kuzuryu/index.htm</a> )	近畿地方建設局 福井河川国道事務所	—	7.4.1 堰周辺の施設状況
7-10	九頭竜川鳴鹿大堰フォローアップ 平成 18 年次報告書	近畿地方整備局 福井河川国道事務所	—	7.4.1 堰周辺の施設状況
7-11	九頭竜川鳴鹿大堰フォローアップ 平成 19 年次報告書	近畿地方整備局 福井河川国道事務所	—	7.4.2 堰周辺の施設の利用状 況
7-12	九頭竜川鳴鹿大堰フォローアップ 平成 20 年次報告書	近畿地方整備局 福井河川国道事務所	—	7.4.2 堰周辺の施設の利用状 況
7-13	平成 18 年度九頭竜川水系河川水辺 国勢調査業務河川空間利用実態調 査報告書		平成 19 年 3 月	7.6 河川水辺の国勢調査(河 川空間利用実態調査) 結果